

セ ン サ ー

2005年 1月号 第38号

東京温度検出端工業会 会報

年 頭 所 感

2005年1月

会 長 荻 野 紘 一

会員の皆様、明けましておめでとう御座います。おめでとうと言うのも気の引ける程、昨年は国内外で災害の多い年でした。

全国から公募した昨年を表す漢字は「災」となったのも、震災、天災、人災、火災などさまざまな災害が集中したからでしょう。国内では、大型化する台風が10個も上陸し、阪神淡路大震災以来の新潟中越大地震が発生し、水害と併せ多大な被害をもたらしました。海外では、イラクやロシアなどでの戦争やテロが続いていますし、昨年暮に発生したインドネシア、スマトラ沖大地震と、それによる大津波は、想像を絶する大被害をもたらしています。

深刻化する地球温暖化への対応は一刻の猶予も許されない状況です。先の台風の大型化などは、温暖化にその原因のひとつがあるとすれば、それはまた人災とも言えましょう。

昨年12月17日にアルゼンチンでのCOP10が閉幕し、条件付ながらロシアが京都議定書に批准し、本年2月に発効することが決まりました。しかしながら、温室効果ガスの最大排出国である米国や二番目の中国、また途上国抜きです。全ての国々がこの温室効果ガス削減に向け努める事が求められている中で、逆に日本でも増加しています。

地球規模での災害を減らす為にも国際的な削減システム作りが必要です。その為にも一国のリーダーや為政者の思想、倫理観といったものが、当該国の利益や戦略等より優先されるのではないのでしょうか。それは又、一企業においても然りでしょう。

最近の海外での戦争やテロ、国内の企業における続発する不祥事等を知るに付け考えさせられます。

昨年、友人の薦めもあって、高野長英生誕 200周年記念公演「早すぎた男」の一人芝居を見る機会がありました。幕末の鎖国のなか、近代日本の扉を叩いた男の生涯を芝居にしたものですが、高野長英の名はご存知の方も多いと思いますが、その略歴と活動について紹介してみますと、1804年（文化元年）に今の水沢市に生れ、幼名を悦三郎といい、祖父から漢学の手ほどきを受け、杉田玄白に学んだ養父から蘭学の初歩を学びながら育ちました。17歳で江戸にのぼり吉田長叔に師事し蘭方医学を学んだ。その時長叔から長の一字を与えられて「長英」と改名した。22歳で長崎に赴き、

シーボルトの鳴滝塾で近代科学を学び、西洋事情の研究等を行ない、1826年（文政9年）にシーボルトからドクトルの称号が与えられた。

1828年のシーボルト事件では旅をしていたため難を逃れた。1830年（天保元年）、江戸麹町貝坂に移り、塾を開き我国最初の生理学書「医原枢要」、地震にあえば「泰西地震説」、天保の大飢饉には「二物考」を著し、馬鈴薯と早ソバの栽培を庶民にすすめるなど、民衆の願いにこたえて、著述、翻訳、講義、診療など精力的に活動した。

1839年（天保10年）、幕府はいわゆる「蛮社の獄」の大弾圧にのりだし、長英は「夢物語」を書いて幕府を批判したとして、永牢の身となった。

長英は獄中から「万国地理書」百巻の翻訳を願い出るなど、不屈の姿勢を示した。

入獄6年目の1844年（弘化元年）、江戸伝馬町獄舎の火事で3日間の切り放しになったのを利用して逃走し、数多くの門人や学者、宇和島、薩摩藩主等に守られながら、ある時は面相を変え、幾度も名を変え、潜行活動を続けながら、翻訳などを成し遂げていった。

1850年（嘉永3年）、長英は沢三伯と変名し、江戸青山百人町で活動中、幕府の捕方に襲われ、所持していた脇差で喉を突いて自刃し、47歳の生涯を閉じた。

長英は、道徳的観点から「夢物語」を著したのであり、表向きには幕府を批判していない。自首をした事でもそれを証明しています。幕府の考え、思想は常に別の方向を見ていたのです。これが蛮社の弾圧であり、「政治疑獄」であったのです。

長英は、蘭学の研究の中から、近代に向けての青写真をしっかりと持っていた日本で最初の男とも言えましょう。合法的な出獄が不可能と知って、最後の手段として脱獄したのです。しかも日本の近代化の為、命を捨てる覚悟を以って……。

このような事実を知るにつけ、当時の為政者の考え方により一人の偉大な人物の運命が変えられたのです。いかにその国の、その企業の為政者なり、リーダーの思想、判断が重大かと言うことが判る様に思います。

今に生きる私達に、長英は何を語りかけて来るのでしょうか。

最後に、私事で恐縮ですが、体調面のこともあって、会の後半の活動に大変ご迷惑をおかけし、申訳なく思っております。本年も皆様方にとり、より良い年となります様、祈念しまして、年頭のご挨拶と致します。

以上

会の動き

◎平成16年1月23日 第47回、技術懇談会。参加者 25名。

①現場計測器の校正の実情（指示計付温度計）について。

田中貴金属工業㈱ 浜田登喜夫氏。

②温度標準の現状と展開。

産業技術総合研究所 新井 優氏。

◎平成16年2月6日 講演会。

燃料電池／水素エネルギーについて。

田中貴金属工業㈱ 阿部昭彦氏。

新春懇親会。

上野「水月ホテル鷗外荘」において。参加者 40名。

◎平成16年 3月10日 「温度計実務講座」第2回。参加者 27名。

◎平成16年 4月15日 理事会。

総会に提案する議案の審議。

年度中の行事について話し合い。

◎平成16年 5月21日 定時総会。

事業報告、会計報告、及び次年度の計画等、提案された議題を審議のうえい
ずれも提案通り承認された。

総会后、懇親会を行った。

◎平成16年 6月2日 「温度計実務講座」第3回。参加者 25名。

◎平成16年 7月28日 第48回、技術懇談会。参加者 20名。

①測温抵抗体のトラブル事例について。

林電工(株) 池上宏一氏。

②TEMPMEKOでの放射測温技術と会議の印象。

産業技術総合研究所 佐久間史洋氏。

③NCSLI出席報告。

東京都立産業技術研究所 尾出 順氏。

◎平成16年 8月25日 「温度計実務講座」第4回。参加者 26名。

◎平成16年 9月9日 理事会。

工場見学会の内容について審議。

◎平成16年10月19日 「温度計実務講座」第5回。参加者 26名。

◎平成16年11月17日 工場見学会。参加者 19名。

【横河電機(株) 甲府工場】

10年ほど前にも工場見学をお願いしたことがあり、その時とどれほど変わっているのか関心がありました。大まかな印象でいいますと、前回の時には作業現場にISOに関連した様々な伝票、標識、標語が氾濫していたように思うのですが、今回はあまり目に付かなかったように思います。10年以上も経過し、ISOに対する活動が定着したことのあらわれなのでしょう。前回にも感じたことなのですが、ほとんどの組立作業は、作業員が立ったままで作業していたことです。作業台も工夫し、人の動きにムダが出ないようにしているものと思いますが、ふりかえって、自分の会社では

ほとんど座って作業しているものですから、考えを変えなければならないのかもしれませんが。

もうひとつ、印象に残ったことといえば、製品を製造するにあたり、外注に頼らず、作れるものは何でも社内で作ろうという姿勢に徹しているように見受けられました。報道されているように、いわゆる量産品については、生産を中国にシフトされているとのことで、生産の中心はどうしても少量多品種になる。一方雇用はできるだけ守ってゆきたい、というような事情からの選択と思われるのですが、我々の仕事も似たようなものですので、何か示唆するものがあるようにも思います。

なお、当日、もう1社、(株)キトー様の見学も予定していたのですが、先様の急な不都合により見学ができませんでした。参加者の方々には大変申し訳なく思っております。

事務局、秀城 記

◎平成16年12月9日 理事会。

2月に行う、講演会、及び新春懇親会について決定。

◎平成16年12月17日 「温度計実務講座」第6回（最終会）。

今回をもちまして、第3次「温度計実務講座」を終了致しました。4回以上出席した28名の方に修了証をお渡ししました。今回は最初に登録した32名中、28名ということで過去2回と比較してもっとも高い割合となりました。

これで3次の講座を終ったわけですが、3次の合計で110名ほどの方が修了証を手にしたこととなります。社員教育の一環としてそれなりの役割りを果たしたのではないのでしょうか。この間、講師を務めていただいた小川実吉氏、及び関係された方々に感謝致します。

編集後記

年が明けて、年始を兼ねて40人ほどの方々とお会いし、お話を伺うことができました。皆さんに業績についてお聞きしますと、おおむねこの3月期まではまずまずの業績で良い決算ができそうであること、受注は昨年の夏をピークに少しずつ下降みではあるが、前回のIIバブル崩壊のときにみられたような急激な落ち込みにはならないのではないか、というあたりだったように受け取りました。

今年もまずまずの業績があげられ、大きな災害や、紛争がありませんように。

平成17年1月発行 No.38

発行所 東京温度検出端工業会

事務局

東京都文京区本駒込6-5-5 (林電工株式会社)

電話 3945-3151